

平成29年6月23日

福生市長 加藤 育男 殿

福生市環境マネジメントシステム監査チーム

代表監査員 田中 俊朗

副代表監査員 石毛 和夫
鈴木 啓治
森田 雅枝
小澤 はる奈

数値目標監査報告書

F-e 数値目標の監査結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査日時

平成29年6月23日(金) 13:30~15:15

2. 監査対象

福生市役所

※市有施設におけるエネルギー使用量(電気・都市ガス・LPG・A重油・軽油)および自動車利用によるエネルギー使用量(ガソリン・軽油・天然ガス)については消防団施設を除く。可燃系廃棄物発生量(重さ・400袋)については小中学校を除く。水道水使用量については消防団施設、市営プール、小中学校プールを除く。

3. 監査結果

		平成 28 年度 数値目標			達成 状況	部門 評価
		内容	目標値	実績		
環境 配慮	市有施設に おけるエネ ルギー使用 量削減	電気	6,605 千 kWh	6,985 千 kWh	未達成	×
		都市ガス、LPG、 A 重油、軽油	568.0kℓ	583.1 kℓ	未達成	
	自動車利用によるエネルギー使用 量削減		37.6kℓ	35.8kℓ	達成	○
	市有施設に おける可燃 系廃棄物発 生抑制	重さ	26,948kg	25,292kg	達成	
		40ℓ袋	2,212 袋	1,737 袋	達成	
	コピー用紙の使用量削減		5,052 千枚	4,919 千枚	達成	
	市有施設における水道水の使用 量削減		84,671 m ³	86,333 m ³	未達成	
環境 経営	各課の環境配 慮取組み状況 の点検	環境負荷調査 の実施	4 回	4 回	達成	○
		環境協働報告	1 回	1 回	達成	
	環境配慮に関 する取組み状 況の内部共有	会議録の情報 発信	5 回	5 回	達成	
		情報発信 (F-e ニュースの発 行)	4 回	4 回	達成	
環境 協働	環境配慮取組 み状況の情報 一般公開	広報・HP	4 回	5 回	達成	○
		「福生市の環 境」への掲載	1 回	1 回	達成	
	市民編集員による環境情報の発 信 (かんきょう通信)		2 回	2 回	達成	

※ 評価：○＝良好、△＝軽微だが改善すべき点あり、×＝勧告に値すべき点あり

4. 所見

平成 28 年度の数値目標の達成状況について監査した結果、環境配慮の視点の目標は電気使用量のみ「×（勧告に値すべき点あり）」、それ以外の項目は条件付きで「○（良好）」、環境経営ならびに環境協働の視点の目標は「○（良好）」と評価しました。以下に評価所見をまとめます。

1. 環境配慮

7つの目標項目のうち、3項目で目標達成に至りませんでした。特に電気使用量については、市庁舎で 23.5%、市民会館で 18.8%と目標値に対して大きく超過しました。市有施設の中でも電気使用量の多い上位 2 施設で大きな超過があったことについて、目標設定チームでは重く受け止め、注意喚起の意味を込めて「×（勧告に値すべき点あり）」と評価しました。

市庁舎の超過はコージェネレーションシステムの故障が主な要因です。本来は効率よくエネルギーを利用できるはずの設備が機能しない状態が長く続けば、第 3 次福生市地球温暖化対策実行計画で掲げた目標達成の道筋が危ぶまれます。ぜひとも早急な対処を検討していただきたいと思います。

市民会館は大ホールの稼働と利用者増加によるものと考えられます。施設の利用が活発化することは、市民サービスの向上として大いに歓迎します。市内の公共施設で魅力的な企画が行われていることは、市民としては大変喜ばしいことです。一方で、目標設定時にいま一步踏み込んだ検討をしていただきたかったと思います。例年より施設の稼働が増えることは、年度当初に判明してはいなかったでしょうか。エネルギーや水道の使用量が増加する要因が予め特定できているのならば、それを踏まえた目標値を設定する必要があります。また、新規事業に取り組む場合であっても、想定される事務量や施設稼働量からエネルギー使用量の増加分を見込み、年度途中で必要に応じて目標変更の申請を出すこともできます。まずは事業と環境負荷をリンクさせて目標設定をすることが重要なのです。

これは市民会館に限らず、他の多くの市民利用施設にもあてまはる指摘です。活動の目安となり、達成に向けて意識できる数値でなければ、目標値の意味がありません。目標設定の重要性を改めて全部署で認識してください。

電気以外のエネルギー使用量については、児童生徒や施設利用者の健康を守るための措置として夏季に冷房の稼働が増えていることが主要因であり、やむを得ないものと判断できます。水道使用量については、超過の原因が特定できており、かつ再発防止策も取られています。特に多くの施設で問題になりつつある漏水については、図書館での再発防止策が水平展開されつつあるとのことですので、それが実施されることを前提に「○（良好）」と評価しました。

2. 環境経営

各部署からに対する調査と結果の集約、情報発信は予定どおり実施されており、F-e ニュースなどの紙面から事務局の努力が窺えます。こうした仕組みづくりは十分に定着していますので、次は質・内容面の充実が図られるような目標設定を検討されてはいかがでしょうか。

3. 環境協働

F-e 関連のみならず、環境に関する様々な情報の発信が市民も参加する形で実施されています。環境経営の目標と同様に、実施回数から質へと目標をシフトしてもよい時期に来たのではないのでしょうか。環境協働報告の仕組みを活かしながら内容面も評価するなど、新たな目標の立て方について検討していただければと思います。

4. 今後に向けた提言

(1) 定常状態の把握をすること

平成 28 年度のエネルギー使用量は、前述のように大きく目標を超過した施設が目立ちましたが、ごくわずかに目標達成に至らなかった部署も相当数ありました。過去数年間の数値の推移と外部環境（気象条件や利用者特性など）の変化を捉え、突発的要素を除く定常状態の数値がどの程度なのかを見極めることが重要です。「現状の施設設備では定常的にこの程度のエネルギーを使用する」という下限ラインが示されれば、それが職員の省エネ行動で目指すべき目標になります。また、それ以上の削減は設備の更新や施設改修によって実現すべきものであることが明確になります。正確な分析でなくても、まずは部署ごとに定常状態を把握するためのレビューをしてみたいはいかがでしょうか。そのことが部署ごとのマネジメント強化の出発点になると思います。

(2) 新規設備の評価を行うこと

平成 29 年夏以降には、もくせい会館や防災食育センターといった改築・新築施設の供用開始が予定されています。それぞれエネルギー効率がよいとされる空調設備や照明設備が導入されていますが、それらが実際に稼働した結果がどうであったか評価することが重要と考えます。その評価結果を他施設の更新時に参照することで、市内に省エネ改修のノウハウともいえる情報が蓄積していくことになります。

市民にも情報公開しながら、新たな施設の稼働状況についてしっかりと評価していただきたいと思います。